

第11回 やぶ医者大賞

表彰式・養父市地域医療シンポジウム

やぶ医者大賞は、「やぶ医者」の語源が「養父にいた名医」であったことにちなみ、全国各地で地域医療に貢献している若手医師を顕彰するもので、今年も2名の医師に「やぶ医者」の称号を贈ります。



佐藤 優子氏



中嶋 裕氏

令和6年

11月16日(土)

13:30 ~ 15:30 (開場/13:00)

養父市立ビバホール

(兵庫県養父市広谷250 TEL.079-664-1141)

入場無料 \ どなたでも参加できます /

*申込は不要ですが、場合によっては座席がない場合があります。

- 手話通訳があります
- やっぷー健康ポイント付与事業です

第1部 やぶ医者大賞表彰式・受賞者発表

(主催者あいさつ・審査講評・表彰)

受賞者発表

「普通の医師(私)が、
教育と仕組みでへき地医療を担う」

島根県 浜田市国民健康保険波佐診療所 所長 **佐藤 優子氏**

受賞者発表

「地域で暮らす人がHappy!になれる地域へ
—山口市徳地診療所の取り組み・やぶ医者の企み—」

山口県 山口市徳地診療所 管理者・所長 **中嶋 裕氏**

第2部

養父市地域医療シンポジウム

地域医療に関するシンポジウムを地元医師及び大賞受賞者により開催します。
地域医療に従事する事となったきっかけや、ご自身の体験談などをお話いただき、
地域医療の魅力を発信するとともに、養父市を含むへき地でのこれからの地域医療について
も意見交換を行います。

コーディネーター
養父市医療福祉アドバイザー
NPO法人但馬を結んで育つ会
代表理事 **千葉 義幸氏**
公立八鹿病院
院長 **西村 正樹氏**

パネリスト
浜田市国民健康保険波佐診療所 所長 **佐藤 優子氏**
山口市徳地診療所 管理者・所長 **中嶋 裕氏**
福井診療所(養父市医師会副会長) **福井 寿徳氏**
谷尾クリニック(養父市医師会理事) **島田ひかる氏**
養父市国民健康保険大屋診療所 所長 **加藤 健氏**

同時開催!

ヘルスチェック コーナー

- ① 11:00~13:00ごろ
- ② 15:30~16:00ごろ

どなたでも参加できます

- ・指先で測る血管年齢
- ・手のひらで測る野菜摂取充足度 等実施予定!

**ご参加いただいた方へ
粗品を進呈**

右下の参加券を切り取って
ご持参ください。

問合せ先

養父市健康福祉部健康医療課 兵庫県養父市八鹿町八鹿1675 (TEL.079-662-3165)



主催 養父市

後援

公益社団法人日本医師会、公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会、公益社団法人全国自治体病院協議会、関西健康・医療創生会議、
認定NPO法人日本ホルモンステーション、公益財団法人健康加齢医学振興財団、兵庫県、一般社団法人兵庫県医師会、兵庫県市町診療施設運営対策協議会、
NPO法人但馬を結んで育つ会、養父市医師会、公立八鹿病院、一般財団法人医療文化経済グローバル研究所

ヘルスチェック
コーナー
参加券

やぶ医者活躍地域

※番号はやぶ医者大賞受賞回
※勤務地は受賞時のもの



江戸時代の俳人の松尾芭蕉の門弟である森川許六（もりかわ きよりく）が編纂した「風俗文選（ふうぞくもんぜん）」という俳文集の中に「藪医者の解」という一節があり、『世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を表す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて…。』と書かれています。

養父市では、「藪医者の語源が、養父の名医」であることにちなみ、名医の郷として「やぶ医者大賞」を実施しています。



藪医者の語源は、養父の名医！ 俳文集「風俗文選 藪医者ノ解」の一節より

藪醫者（やぶいしゃ）の解 汶村（ぶんそん）

世に藪醫者と號するは、本名醫の稱にして、今いふ下手の上にはあらず。いづれの御ン時にか。何がしの良醫りょうい。但州養父といふ所に隠れて。治療をほどこし。死を起こし生かえに回すものすくなからず。されば其風そのふうをしたひ。其業そのわざを習やからふ輩。津々浦々にはびこり。やぶとだにいへば。病家も信をまし。薬力も飛がごとし。……

※出典：岩波文庫『風俗文選』（伊藤松宇校訂、昭和3年10月15日発行）

※この一節で藪医者に言及したのは許六ではなくその門弟で、許六と同じく近江彦根藩士の「汶村」という人物です。

この一節を意識すると次のようになります。

世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を現す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。いつごろの時代であろうか。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて、土地の人に治療を行っていた。死にそんな病人を治すほどの治療を行うことも少なくなかった。その評判は広く各地に伝わり、多くの医者の卵が養父の名医の弟子となった。養父の名医の弟子とえば、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。

なぜ名医の代名詞としての「養父医者」は、ヘタを意味する「藪医者」となってしまったのでしょうか。

「養父の名医の弟子とえば、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった」と「風俗文選」にもあるように、「養父医者」は名医のブランドでした。

しかし、このブランドを悪用する者が現れました。大した腕もないのに、「自分は養父医者の弟子だ」と口先だけの医者が続出し、「養父医者」の名声は地に落ち、いつしか「藪」の字があてられ、ヘタな医者を意味するようになったとされています。

このように「藪医者」の語源については様々な説がありますが、文献に基づくと「藪医者とは、もともと名医を表す言葉であり、その語源は養父の名医である」という説が本当ではないでしょうか。